

グラウトブロッカー

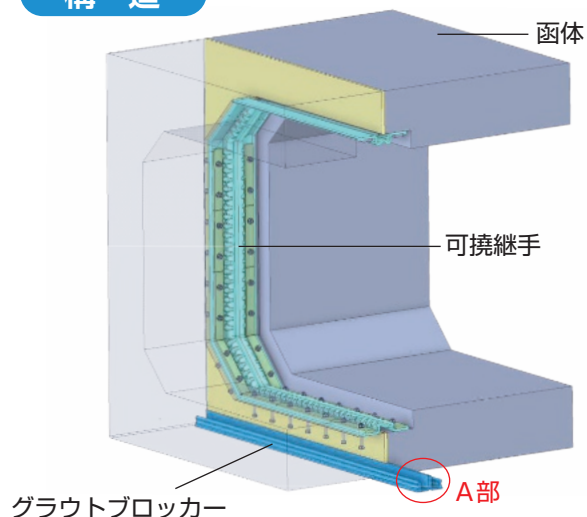
はじめに

樋門函体に作用する土圧や水圧、また地震等の影響により、函体とその周辺地盤の一体性が損なわれ函体直下に空洞が発生する場合、その対策として底版に設置したグラウトホールからグラウト材を注入し空洞を埋めることが有効とされています。

しかし、函体継手近傍では目地から函体内部へのグラウト流入による函体本体や可撓継手への影響が懸念されることから、別途対策が必要でした。

今回、函体間の変位に対応しながら、函体直下からのグラウト流入を防止することを目的としたグラウトブロッカーを開発致しました。

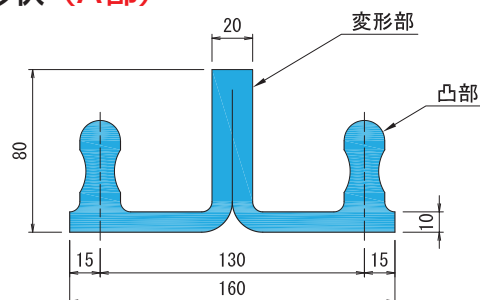
構造



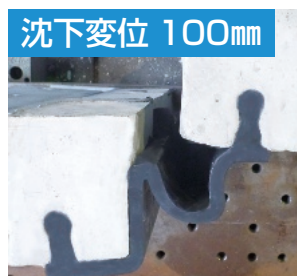
型格表

設置幅	製品厚	許容変位量	
		開き方向	沈下方向
160mm	10mm	100mm	100mm

形状 (A部)



試験状況



特長

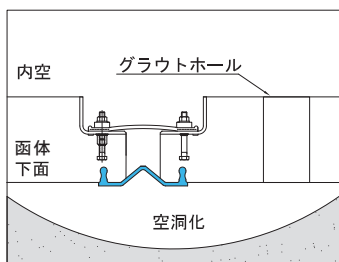
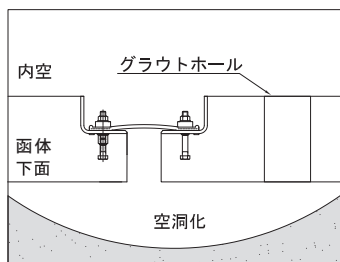
1. 函体下面に設置して函体直下からのグラウト流入を防止します。
2. 凸部を函体に埋設するため密着性が高く、空洞や変位が起きても脱落や隙間は生じません。
3. 所定の位置に置くだけで良く、またコンパクトで軽量のため施工が簡単です。
4. ゴム材料は耐久性に優れたクロロプレン系合成ゴムを使用しています。

グラウト注入工の模式図

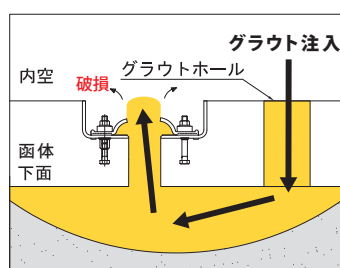
グラウトブロッカーなし

グラウトブロッカーあり

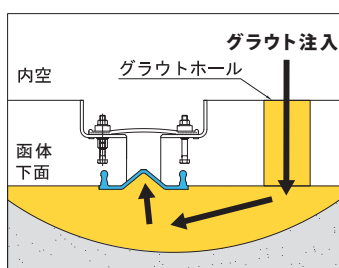
★外圧や地震の影響により変位・空洞が発生！



★空洞を埋めるためグラウト材を注入



目地や可撓継手内空部が詰まる



グラウト材の流入をブロック！

リスク増大

(函体への応力集中等)

リスク回避

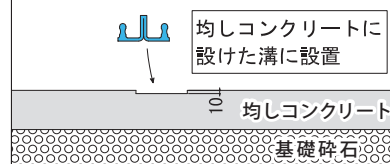
ゴム材料の物理的性質

項目	単位	規格値	試験値	試験方法
硬 さ	---	A60 ± 5	A60	硬さ試験 JIS K 6253
伸 び	%	350 以上	470	引張試験 JIS K 6251
引張強さ	N/m ²	16 以上	17.4	引張試験 JIS K 6251
老化試験	硬さ変化	---	0~+7	空気加熱老化試験 JIS K 6257 (70℃× 96h)
	伸び変化率	%	-30以上	
	引張強さ変化率	%	-20以上	
圧縮永久ひずみ	%	30 以下	17	圧縮永久ひずみ試験 JIS K 6262 (70℃× 24h 25% 圧縮)
耐水性 (質量変化率)	%	5 以下	2	浸せき試験 JIS K 6258 (23℃× 168h)

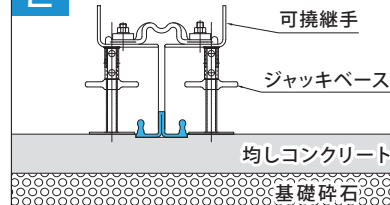
(社内規格)

施工手順

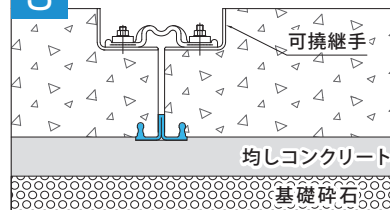
1 均しコンクリートに設けた溝にグラウトブロッカーを設置する



2 可撓継手を設置する



3 コンクリートを打設し、完成



東京ファブリック工業

支 店

札幌 盛岡 仙台 宇都宮 新潟 東京 横浜 名古屋
金沢 京都 大阪 高松 広島 福岡 鹿児島



お問い合わせ先

本 店

〒163-0429 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル29階
URL : <https://www.tokyo-fabric.co.jp/>